

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果から読み取れる、
児童生徒や学校の状況

調査人数 小学6年生 959名、中学3年生 900名

1 教科に関する調査結果

正答率一覧（単位％）（「正答率」は、満点を100点としたときの「点数」と同じです。）

学校	教科	年度	全国平均	県平均	石巻市平均	全国と市の差	県と市の差	標準化得点※
小学校	国語	R6	68	65	66	-2	+1	99
		R5	67	65	64	-3	-1	98
	算数	R6	63	57	58	-5	+1	97
		R5	63	58	57	-6	-1	98
中学校	国語	R6	58	55	53	-5	-2	97
		R5	70	68	64	-6	-4	97
	数学	R6	53	46	44	-9	-2	96
		R5	51	44	41	-10	-3	96

注1) 全国、県共に公立学校の平均です。

注2) 県平均は仙台市を除いた数値です。

注3) 県平均、石巻市平均は、整数値で示されており、全国平均の数値は、小数第1位を四捨五入したものです。

注4) 詳細な分析結果については後日公表いたします。

※) 標準化得点とは、各年度における全国の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した場合の石巻市の得点です。

2 教科に関する調査結果から ○：よさ △：課題

〔国語〕

○小学校は、県平均を上回った。

○小学校は、「読解力」「記述」の分野で全国平均を上回った。

○中学校は、県平均との差が縮まった。

〔算数・数学〕

○小学校は、県平均を上回った。

○中学校は、県平均との差が縮まった。

〔全体〕

○小・中学校ともすべての教科において全国平均との差が縮まった。

△小・中学校ともすべての教科において全国平均を下回っている。

<全国との乖離が特に大きかった問題>

小学校算数

540 ÷ 0.6 を計算する

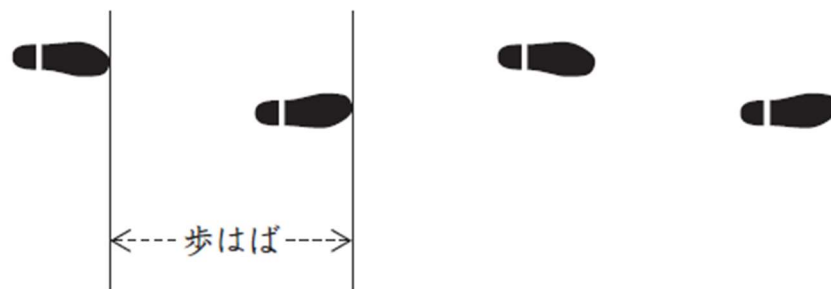
※ 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかを問われている。

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを 0.6 m とします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$ を計算しましょう。

中学校数学

n を整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す

※ 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかを問われている。

1

連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 n を整数とすると、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表しなさい。

3 児童生徒質問紙から ○：よさ △：課題

(1) 学習意欲の向上について

- 「国語の勉強は好きですか。」「国語の勉強は大切ですか。」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立ちますか。」は肯定的な回答の割合が、全国平均を上回った。
 - 「算数（数学）の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えていますか。」は肯定的な回答の割合が、全国平均を上回った。
 - 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。」は、肯定的な回答の割合が全国平均を上回った。
 - △「自分にはよいところがありますか」は、県平均を上回っているものの、全国平均は下回った。
- 国語を中心に、学習意欲の向上が見られている。また、児童生徒と教師との良好な関係が築かれている。

(2) 授業改善について

- 国語については、「国語の授業の内容はよく分かりますか。」を始め、全ての項目で肯定的な回答の割合が、全国平均を上回った。
 - 「これまでに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか。」では、週１回以上と回答した割合が全国を上回った。また、ほとんどの項目で全国値を上回った。
- 国語を中心に、授業改善の成果が見られている。また、児童生徒は授業の中で自信をもって日常的にＩＣＴを活用している。

(3) 生活習慣について

- △朝食を毎日食べている割合、毎日同じ時刻に寝ている、家庭学習の時間と読書の時間については、全国平均を下回った。
- △ゲームやＳＮＳ、動画視聴の時間は、全国を上回った。

4 学校質問紙から ○：よさ △：課題

(1) 学習意欲の向上について

- 「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。」は、全国平均を上回った。

(2) 授業改善について

- 「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。」は、ほぼ毎日と回答した割合が全国平均を大幅に上回った。
- △「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決方法に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。」は、全国平均を下回った。

(3) 生活習慣について

- 「家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。」は、全国平均を上回った。

**令和6年度全国学力・学習状況調査結果・分析に基づき、
「石巻市の学力向上」を展開する中で、下記の取組を推進する。**

石巻市教育委員会では、石巻市学力向上プラン、学力向上マネジメント支援事業の実施等により、学力向上対策に力を入れている。

今後も、学力向上推進委員及び市内全小中学校の教職員や保護者と課題意識の共有を図りながら、学力向上に向けた教育活動の改善と充実を目指していく。以下、石巻市学力向上プランで掲げる3つのポイントに沿って、課題解決を図る。

(1) 学習意欲の向上

これまで本市を挙げて取り組んできたマルチレベルアプローチ理論（MLA）を生かしつつ、児童生徒の学習意欲を高める。児童質問紙質問項目「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思うか」では、全国平均を上回っていることから、児童生徒と教師の関係は良好であることがうかがえる。また、算数・数学の質問項目で問題に対しあきらめずに取り組む児童生徒の割合が多いことから、粘り強く学習に取り組む児童生徒が育っていると考えられる。しかし、「自分には良いところがある」については全国を下回り、小学校児童の「算数・数学への関心等」の項目も全国平均を下回っている。全国学力・学習状況調査の分析・活用についても、更に意識し、取り組む必要がある。

以上を踏まえ、次の4点を重点とし、学習意欲の向上を図る。

①MLA理論に基づく実践を確実に実施する（特にPBIS）。…最重要

- ②全国学力・学習状況調査の結果を学校全体で分析し、全職員で課題を共有するとともに、保護者に結果と指導方針を共有することを徹底する。
- ③分析を基に、児童生徒一人一人の実態を踏まえた指導を展開する。
- ④「できた」を実感させ、基礎基本の徹底を図るために、「タブドリ Live!」の活用など一層の指導の工夫を行う。

(2) 授業力の向上

一時間(小45分、中50分)の授業改善が意識され、小学校では、正答率が県平均を上回っているが、児童生徒質問紙項目「算数の勉強は好きか」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか」等が全国平均を下回っていることから、算数への関心が低くなっていること、算数の普段の生活の中での活用が十分ではないことがうかがえる。児童生徒に対し、学習への課題意識を持たせることが必要となる。学校質問紙質問項目「授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思うか」「学習指導において、児童生徒の一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したか」等が全国平均を上回っていることから、「個別最適な学び」を意識した授業展開がなされ始めていることがうかがえる。一方、「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」などの話し合う活動で、全国平均を下回っていることから、「協働的な学び」を意識した授業展開は、改善の余地がうかがえる。ICTを活用した学習状況に関しては、教員と児童生徒で意識の差があり、今後一層工夫したICT活用が必要である。

国語の授業や学習に関しては、児童生徒質問紙において肯定的な回答を得ており、成果が見られている。正答率は全国との乖離は年々小さくなり、改善が見られる。これまでも課題となってきた「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を高める指導を今後も意識的に行うこと、特に、自分の考えを整理して書くことを意識した指導を工夫していく必要がある。

算数・数学に関しては、全国との正答率の乖離はあるが、その差が年々縮まり、改善が見られている。問題別でも正答率の大きな乖離は少なくなり、これまでの指導の成果が見られる。

以上を踏まえ、次の5点を重点とし、授業力の向上を図る。

- | |
|--|
| <p>①児童生徒が課題意識を明確に持ち、進んで学習できるよう、単元全体の構成、他の単元とのつながりを意識した授業づくりを強化する。…最重点</p> <p>②学び方を自己選択したり、友達と学び合ったりできるよう、一単位時間における児童生徒の学習活動時間を十分確保する。その際、児童生徒一人一人への多様な学びの場と仲間と共に学び合う環境を提供する。（「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実）</p> <p>③児童生徒が授業において、効果的にＩＣＴを活用できるように、自校でＩＣＴ活用研修を日常的に行うとともに、中学校区でもＩＣＴの多様な活用方法を共有するなどする。（ＩＣＴの指導技術の向上）</p> <p>④国語においては、「文学的文章」「説明的文章」を扱う単元において、言葉に着目した読みの指導を徹底するとともに、自分の考えを書く活動、文章を要約する活動等を一単位時間の学習の中に位置付ける。（「思考力、判断力、表現力等」を向上）</p> <p>⑤算数・数学においては、昨年度に引き続き、領域「Ａ 数と計算（中学校は「Ａ 数と式）」を大切に指導しつつ、「知識及び技能」の資質・能力を高めることに重きを置く授業、基礎・基本を大切にする授業を徹底する。その際、「タブドリ Live!」を有効活用する。また、普段の生活と結びつける導入を工夫するなどし、実生活とのつながりを意識させ、算数・数学の必要感を高める指導を心掛ける。</p> |
|--|

(3) 基本的な生活習慣の確立

朝食を毎日食べている、同じ時間に寝ている割合、家庭学習の時間、本の蔵書数、新聞を読んでいる割合については、全国を下回った。また、学習以外に、ＩＣＴを利用している割合は、全国を上回った。このことから、家庭学習や読書活動の推進、ＩＣＴについて、各校で工夫した取組が必要である。また、今後も家庭へ継続的に働き掛けることで、児童生徒が家庭学習や読書活動の取組にやりがいや達成感を感じ、進んで学習するとともに、自らの好ましい生活リズムを確立することができるよう支援していく必要がある。

以上を踏まえ、次の5点を重点とし、基本的な生活習慣が確立するよう取り組む。

- | |
|---|
| <p>①家庭学習や読書活動を効率的に累積させる（ＩＣＴの活用）。…最重点</p> <p>②「石巻市学力向上プラン保護者リーフレット」も活用した家庭との連携を図る。</p> <p>③中学校区の連携を一層強め、小中継続した家庭学習の習慣化を一層推進する。</p> <p>④読書活動の推進を強化する。（Yomokka!の活用と学校図書貸出の推進）</p> <p>⑤保護者、中学校区と連携し、家庭でのＩＣＴ機器の望ましい利用について働き掛ける。</p> |
|---|